

「日々の理科」(第 2576 号) 2021, -8, -2

「夜のウリ坊 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

親イノシシは非常に警戒心が強く、自分からヒトに近寄って来ることはよほどのことがない限りあり得ない。「よほどのこと」とは、子イノシシが危険にさらされているような状況だ。今回の「イノシシ通過」もまちがいがなく子イノシシ連れなので、車に向かって「猪突猛進」されないように、あまり近づかないことにした。



親イノシシ (オスとメス) に送れること約1分、最初の子イノシシが道路右側の草むらから姿を現した。この春先に産まれた子どもだろう。写真ではわかりにくいですが、確かに白い縞模様が見えた。



親を追って、すぐに左側の森に入るとしたら、何か躊躇しているように様子を伺っている。やっと親の通った道を発見したようで、森に入っていった。



その後、「弟・妹？」たちが、続々と草むらから出てきた。子イノシシは成獣に比べると、ずっと警戒心が弱い。時には、自分から車のほうに寄ってくる者もいる。



子イノシシは続々と出てきて、道を渡っていった。全部で7頭だったように思う。



子イノシシたちは、数分をかけてやっと渡り終わった。その間、森の中から何度か親の鳴き声が聞こえた。やっぱり心配だったのだろう。